

令和5年度上磯高校 自己評価アンケート結果

各質問項目を読んで、評価欄A～Dのどれかに○印を付けてください。

回答数16
一部の設問に無
回答あり

令和5年(2023年)12月20日(水)
令和6年(2024年)1月16日(火)

1 教育活動について

ここでの各評価は、A:十分である B:おおむね十分である C:不十分である D:改善を要する です。

※ 評価欄の数字は、今年度の評価を5点法(A=5点、B=3.75点、C=2.5点、D=1.25点)に換算し、表記した数値です。

領域	対象	今年度の目標	目標達成のための評価の観点	数値目標等	A	B	C	D	評価数値	昨年度	改善方策
教育活動	学習指導	1 学習意欲の向上	・観点別評価、新カリキュラムを定期的に検証するとともに、学習成果発表の場を設定するなど、学習意欲を向上させる取組を実施できたか。	○学習成果発表会の場を教科、探究の時間を含めて各学年で4回以上設定。	3	7	3	0	3.8	3.6	・次年度が新カリキュラムの完成年度のため、職員全体で成果と課題を検証する場を設けるなど、カリキュラムマネジメントを充実させる。
				23%	54%	23%	0%				
		2 ICT活用の促進	・全教員がBYOD端末を有効に活用する授業実践を行うとともに、教科ごとの効果的な活用について研究を進めることができたか。	○ICTに関する研修会を年間10回以上実施。	3	9	1	0	3.9	3.8	・ICTは日進月歩であるため、情報の収集を怠らず、DX事業の活用や、ニーズに応じた定期的な研修会を引き続き実施していく。
				23%	69%	8%	0%				
	生徒指導	1 生徒会活動の充実	・生徒会行事のみならず、日常の学校生活を躍動させる取組を、企画・実践・持続する指導を行えたか。	○年2回程度のリーダー研修会や行事ごとの評価アンケートを実施し改善に活かす。	0	7	4	1	3.1	3.2	・改変したばかりの生徒会組織、委員会体制を活用し、生徒会執行部と各種委員会の役割分担、行事運営の円滑化などを推進していきたい。
				0%	58%	33%	8%				
		2 生徒・保護者との生徒指導の在り方共有	・学校行事等に対する生徒・保護者の意向把握に努め、本校の方針・在り方を共有し、よりよい生徒指導体制を築けたか。	○生徒指導部・生徒会だよりの隔月発行や意向調査のためのアンケートを実施。	1	10	2	0	3.7	3.8	・保護者に対する情報発信の機会を増やす方策を検討し、実施していきたい。また生徒会だよりの発行に向けて準備を進めたい。
				8%	77%	15%	0%				
	進路指導	1 進路実現に向けた意欲の喚起	・「総合的な探究の時間」や「LHR」を有効に活用し、生徒に夢を持たせ、その実現に持続的に取り組ませることができたか。	○全校生徒との進路面談を前期1回、後期2回、計3回最低実施。	1	8	4	0	3.5	3.4	・今後も学年と連携しながら取り組む。
				8%	62%	31%	0%				
		2 学年、保護者への情報発信	・生徒の進路希望をよく理解し、実現に向けた支援を学年、保護者が行えるよう適切な情報発信及び助言を行うことができたか。	○職業体験、グループワーク・ガイダンス、就職ガイダンス等説明会を各学年1回以上実施。	1	4	7	1	3.0	3.8	・今後も継続していく。
				8%	31%	54%	8%				
学校運営	開かれた学校づくり	1 北斗高等支援学校との連携強化	・連絡会議を機能的なものとし、方向性の共有、早期での課題把握など、「協和」実現に向けた計画、具体的な取組を提案することができたか。	○本校の行事や取組とのリンク依頼を年度当初から実施し、策定・実施する。	2	9	5	0	3.5	3.0	・北斗高等支援学校との連携については、連絡会議や教科・分掌の打ち合わせの充実を図り、両校の強みを共有する取り組みを推進する。
				13%	56%	31%	0%				
		2 市内小中学校、地域への情報発信及び交流活動の実施	・本校からの情報発信のみならず、小中学校との共同の活動や地域行事への積極的な参加により、児童生徒との直接的な交流が図られたか。	○市内小中学校児童生徒との交流事業5以上。	1	8	5	1	3.3	3.0	・市内小中学校、地域との関わりについては、学校間交流や学校開放講座等の取り組みをさらに充実させていく。
				7%	53%	33%	7%				
	組織運営	1 担当校務の平準化	・今年度教育計画の実施事項、分担者等を前期に見直し、後期に平準化に向け取り組むなど、実効性ある働き方改革を実行できたか。	○前期評価定期面談等で実行感を確認し、50%以上の実行感覚を得る。	1	8	7	0	3.3	3.6	・業務内容の精査やICTの活用による効率化をはかり、人事評価制度に係る定期面談等で実効性を確認する。
				6%	50%	44%	0%				
		2 協働する職員集団の構築【働き方改革を意識】	・校務運営上の調整や課題解決に向け、個々の職員が主体的に取り組むとともに、他の職員と協働し、円滑に校務運営を進めることができたか。	○協働体制の有機的連携により45h/月の超過勤務者数の前年度比50%減。	1	11	4	0	3.5	3.8	
				6%	69%	25%	0%				
	教員の資質能力向上	1 研修の充実	・学習評価や新カリ、BYOD端末活用での全体的、計画的な研修と個々の研修還元報告等を組み合わせ、職員の意識を高めることができたか。	○各種研究協議会における研究発表者を年間のべ2名以上。	7	5	1	0	4.3	4.0	・各種研修の受講奨励や教育動向に対する迅速な情報提供を通じ、継続発展させていく。
				54%	38%	8%	0%				
		2 社会性の修得	・教育に関する情報のみならず、社会の動きや課題について職員に情報提供し、高い社会性を有する教員として校務にあたることができたか。	○各テーマごとのミニ発表会実施を3回以上。	4	8	1	0	4.0	3.6	
				31%	62%	8%	0%				

※ 教育活動6項目について無回答各3名あり

2 入学者確保に向けた取組とその状況

○中学校訪問 6月、10月、11月、12月(北斗市、函館市、七飯町、木古内町立中学校)
○中学校等へ学校PRポスター等、テーマ別に5回配付
○学校説明会2回、上磯高校の存続に関する検討協議会、北斗市内中高情報交換会開催
○教務・生徒指導各部長の北斗市立中学校訪問
○学校開放講座・公開授業等の6月～2月のべ9回実施ほか、北斗市夏まつりや北斗市子ども議会等、北斗市行事(含:防災事業)への生徒及び教職員の参画等の地域連携
○北斗高等支援学校との合同学校祭を始め19項目の連携教育活動によるインクルーシブ教育の実践
○経営方針の骨子の一つ「生徒の自己有用感向上」に係る適正な生徒理解や多様な生徒の学びの質向上に係る授業改善等に向けた各種教職員の資質能力向上のための校内研修(適正な生徒理解に係る校内研修を月例12回+テーマ別4回、CTの活用について①～⑥、観点別評価、ICTを活用した学びのDX事業(公開授業)等8回の実施)の実施